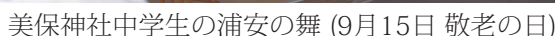


岩本悦子

島根県は、東西に長く出雲地方と石見地方に分かれています。私は石見地方の浜田市から十数年前に松江市に転居しました。出雲地方の事は全く知らず、全てが珍しく、山陰中央新報の記事を見て浦巡りを知り、出雲地方の神々の世界への関心から研究会に入会しました。

最近三年間をかねて四国八十八ヶ寺と別格二十ヶ寺の合わせて百八ヶ寺の巡礼の旅を終えました。それは自分が生かされていることを知る旅で、心の洗濯になったように思います。出雲地方には出雲大社、日御碕神社、一畑薬師、美保神社と有名な

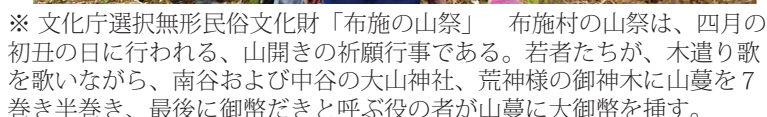


松江市学園

岩山哲川

隱岐の島町の布施の大山神社には、全く神殿が見あたらない。島でも小さい村の布施の奥山の三つの谷それぞれの里山に鎮守の森があり、白木の簡素で小さな朽ちた鳥居が建っている。鳥居をくぐると鬱蒼とした木々の奥の境内に立ちほだかる様に落ち葉の積る山肌が迫る、そこに苔むしたご神体の千年杉が鎮座している。木々を突き破り大空に突き出たご神木の周りには大きな空間が現れていて、そこから光が差し込む光景は千年杉のご神体説を疑う余地がないと思われる。

古来からこの千年杉に山の神が宿ると伝えられ、四月初丑の日に（二年に一回の開催となり、次回は平成二十八年四月開催予定）数十人の男達が酒を浴びるほど飲み続け直径六センチほどの葛を木やり歌に合わせて七回り半巻きつける山祭りがある。祭りの云われは、所謂不美人の神様（大山祇神の長女の磐長姫命）と伝わっている女神、他の山の神の祟り・悪



戯をなす魔人の障りを鎮め、一年間の山作業・農作業の安全・豊作、子供の無事成長を祈願し、山の神大山祇神をお祀りするものであると伝わる。

平成六年に文化庁の調査により、この祭りは縄文時代の巨木信仰であると判明、三重県熊野地方にも伝わっていたが、現在では絶えている。ところが、隠岐の島町布施の山祭りは存在・内容共に疑う余地なく縄文の巨木信仰そのものであり、平成七年、国の重要無形民俗文化財に次ぐ位置づけとして選択無形民俗文化財とされている。縄文時代から続く神事・巨木信仰の意味を解くカギが出雲地方にあり、その一端が「布施の山祭」であり隠岐島内や山陰地方に伝わる荒神の神木に藁縄を蛇に見立てて巻きつける収穫感謝の行事「荒神祭」があるが、この布施村の山祭りの帯締めは、そのさらに古い姿を残すものである。

二級建築士